

Structure Kansai No.100 2009.1

JSCA関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

100号 記念号



今春リニューアルオープンを目指す阪神甲子園球場(2008.12.8撮影)



**Structure Kansai
100号記念号
発行にあたって**

**広報委員長
大林組 設計部部長
安井 雅明**

1. はじめに

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましてはいかがが新年をお迎えでしょうか。さて今回の2009年新年号は、関西支部の広報誌Structure Kansaiが創刊されて100号となる記念すべき号であります。

広報誌は、広報委員会が企画・編集・発行を行いますが、その掲載内容は、多くの会員の方々の原稿や生の声を頂くことにより構成されています。記念号の巻頭ページをお借りして、これまで広報誌を発行してこられた広報委員の方や、原稿を頂いた多くの会員の皆様に、まずは感謝の意を表したいと思います。

2. 広報委員会の活動

現在広報委員会は、私を含めて合計15名(石槌・大住・垣岡・金田・河野・小島・白髪・白沢・田代・藤井・三原・三輪・安井・山浦・山根 敬称略順不同)で活動を行っています。広報委員会の活動は、会員の皆様への情報提供を中心に、基本的には会員サービス向上を目的とした活動と位置づけております。

具体的な委員会活動は、「広報誌Structure Kansaiの企画・編集・発行」「ホームページの企画・更新・管理」

「産・官・学関連機関へのPR活動」などです。中でも広報誌の発行は、委員会活動の中心で大部分のエネルギーを費やしています。各号ごとに2名の方にご担当頂き企画・編集・発行を行いますが、年4回の発行を継続していくために、委員の方々には大変なご苦勞をおかけしております。

その他ホームページの企画・更新・管理は、情報化網の進展のため、現在その充実に取り組んでいます。会員の皆様への一斉メールや、アンケート調査などが迅速に行なえる環境になりつつあります。

3. 広報誌の歴史と役割

Structure Kansaiの第1号は1982年6月に構造家懇談会関西支部設立を巻頭記事として創刊され、以来今年で27年100号を数えました。

これまで継続して広報誌を発行してこられた先輩の方々に敬意を表する意味で、歴代の広報委員長をご紹介します。

- 初代 樋口元一
- 2代 板垣勝善
- 3代 岡本達雄
- 4代 多賀謙蔵

今回記念号の企画は広報委員全員で取り組みました。編集委員としては三原清敬さんと河野隆史さんがご担当されました。三原さんにおかれましては、広報委員会が発足し、Structure Kansai 第1号創刊当時から広報委員として活動してこられました。その方が100号記念号の

編集委員を受け持たれたことをここに紹介させていただくとともに、長年のご活躍と今回の記念号発行のご苦勞に対して深く敬意を表します。

さて過去のバックナンバーの記事を今改めて開いて見ますと、関西支部の広報誌として多くの役割を果たしてきたと感じます。「会員相互の情報交流の場」としての役割が基本ではあると思います。しかし100号の積み重ねにより「関西の構造技術の歴史そのもの」を読み取ることができる価値ある文献になっています。またJSCAという全国組織の中で「関西支部としての役割や活動方針」を考える上での貴重な資料ともなっているのではないのでしょうか。Structure Kansaiは支部報として今後も果たすべき役割は大きいものと思います。

4. おわりに

今回の100号記念号発行を契機に、会員の皆様へのさらなるサービス向上につながるような広報委員会としての活動を続けていこうと考えています。

広報誌Structure Kansaiにおいては、200号記念号発行に向け、新たな企画内容にもチャレンジしていきます。またホームページについては、今後JSCA関西支部活動の情報網の主力となると思います。そのためより使いやすい環境に随時更新していきます。

会員の皆様のご支援をどうぞよろしくお願い致します。



100号に想うこと

支部長
(株)竹中工務店
角 彰

最初に「Structure Kansai」が代々引き継がれながら100号に達したことに、編集委員を始め関係者の皆様のご努力にあつくお礼申し上げます。また会員の皆様とご一緒にお祝いしたいと思います。

我が国では古くから、お百度参りと言う言葉があるように、100回は願掛けが適う、縁起の良い区切りの時と考えています。その時が、構造設計一級建築士の実施と言う、記念すべき変革の年と重なりました。

世界を覆うマイナス思考は止めましょう。我々が求めるJSCAの理想像のために地道な努力を積み重ねましょう。今まで以上に「Structure Kansai」が会員相互の情報交換の要となることを期待しています。

我々が自分達と自分達の後を継ぐ若者達のために、何ができるかを考えましょう。そしてJSCAに結集しましょう。



新年明けまして
おめでとうございます
副支部長
(株)東畑建築事務所
近藤 一雄

新年明けましておめでとう御座います。加えて「Structure Kansai」100号発刊おめでとう御座います。新耐震設計法の施行により個人の疎外化、孤立化が増大する中、構造設計者の職能を社会に認知してもらうことを目標に一致団結しようと構造家懇談会が設立され、4半世紀がたちました。

構造計算書偽装事件のきっかけによる建築確認の厳格化のため構造計算適合性判定が義務付けられ、4半世紀前と同様閉塞感、無力感、が漂う中、昨年末には建築士法の改正により構造設計一級建築士が誕生しました。構造設計者が法的に認定されましたが、今まで脇役、黒子であった構造設計者が、表舞台に急に主役として観客の前に出て行くことになりました。構造設計者とは何を行い、どういう責任があるか、未だ構造設計者の職能が社会に認知されたとは言いがたい状況です。JSCAの責務は今まで以上に重大です、構造設計にかかわる全ての技術者が団結し、活動していくことが必要です。会員皆様が積極的に参加されることを御願いたします。



Structure Kansai
100号によせて
副支部長
(株)平田建築構造研究所
西村 清志

新年おめでとうございます。

激動の2年間を経過しました。本年が皆様のご隆盛とご健康の年でありますよう、祈念いたします。構造設計一級建築士は国の認める業務独占資格となり、一定規模以上の建物を設計するにはこの資格が必要となる制度となりました。国交省は定期講習等で資格の維持を考えているようです。構造設計一級建築士の組織だった教育や、指導、情報を受けられる組織は、構造士を創ってきたJSCA以外はありません。建築構造設計に特化した組織で構造設計一級建築士制度を取り込んだJSCAに生まれ代わる必要があると感じます。構造設計一級建築士の情報伝達、教育機関として活動する組織であることが望まれます。資格の登録は別の団体でも定期講習と運営はJSCAが行うことが重要と考えます。



期待と不安

事業委員長
(株)和田建築技術研究所
新保 勝浩

明けましておめでとうございます。

不確実性の時代になったと話題になってから久しいですが、皆さんはいかがでしょう？まったく予想もしない出来事が、短い周期で激動することに順応できなくなっている自分に年を感じさせられます。姉歯耐震偽装から基準法の大改正、原油や原材料の高騰と暴落、それにサブプライムローンによるバブル崩壊での株の大暴落などなど。これから先の景況も大きな問題ですが、なにより構造設計一級建築士で建築構造設計者の地位が向上するだろうか？業務報酬の告示で構造設計料が改善されるだろうか？建築士改正で建築士としての責任の重さや、それに係わる懲罰で何が起こるのだろうか？今年こそは、といつも願って新年を迎えておりますが、この文面を書いている現在、僅かな明かりしかない未知のトンネルへ入る不安とトンネルを抜けたときの期待が入り混じった複雑な気持ちです。



貴重な記録としての意義

技術委員長
(株)日建設計
多賀 謙蔵

100号記念号の発刊おめでとうございます。私自身昨年技術委員長を拝命する前は広報委員を務めさせていただいてましたので、3か月に一度、8ページの小冊子とはいえ、編集担当委員の手作りで、絶やすことなく情報を提供し続けてきたことに我ながら感心していました。

さて、このたび本号で技術委員会のあゆみを纏めることになり、改めて記録誌としての重要性を感じました。あゆみを振り返ろうとして、前任の技術委員長は檜原さん、その前はエーッと？という状況でしたので創刊号以降のバックナンバーにちりばめられた技術委員会の情報は、まさに宝物でした。

ホームページを立ち上げた以降、「紙ベースの会誌の意味」について何度か議論がありましたが、今回「記録」としてのありがたさが身に沁みました。広報委員会の皆様、ご苦労ですがこれからも貴重な記録の蓄積をお願いいたします。



100号の発刊にあたり

構造レビュー委員長
鹿島建設(株)
辻 幸二

新年明けましておめでとうございます。

構造レビュー委員会は、姉歯の耐震偽装を契機として窓口相談・設計図書のレビューを行なった特別活動「偽装問題対応委員会」がその前身で、平成18年4月から国土交通省のマンションサンプル調査(関西支部72件)の委託を受けた際に「構造レビュー委員会」として正式に発足し、19年9月にかけてホテル・事務所のサンプル調査(関西支部14件)を含めて再計算報告書のレビューを行なってきました。昨年度から「Q&Aコーナー」を立ち上げ、会員の構造技術に関わる疑問の解決支援を図っています。更に、構造計算適合性判定がスタートして1年が経過しましたが、確認申請業務の円滑化に向けた取り組みとして、関西の適判4機関の足並み調整会議に参加しています。適判の指摘に対する意見を、「Q&Aコーナー」で受け付けていますので、皆様のご意見をお寄せ頂ければ幸いです。



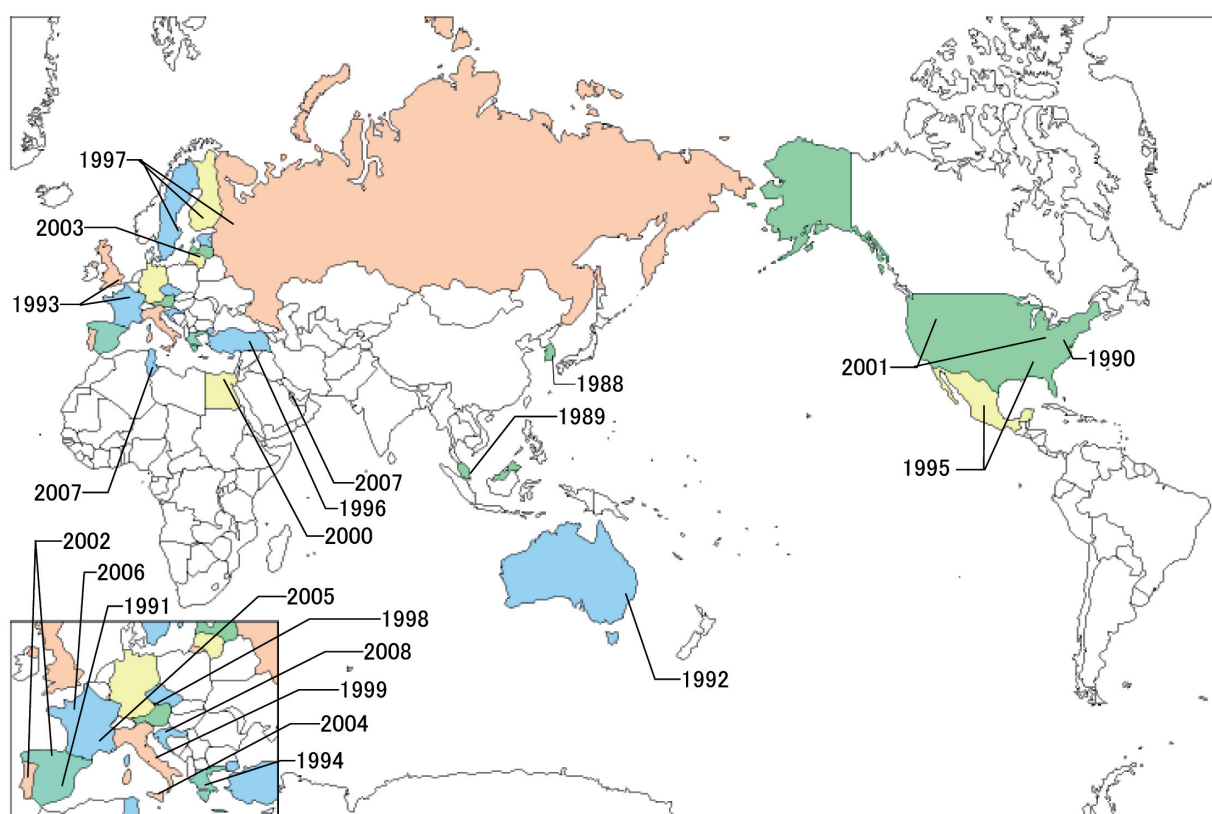
海外研修について

事業委員長
(株)和田建築技術研究所
新保 勝浩

JSCA関西支部設立8年目の1988年から始まった海外研修は、当初、オリンピック施設の視察を目的としておりましたが、4年ごとの研修になってしまうために、その間は大都市の最新建築物の視察研修としておりました。しかし、オリン

ピック施設の視察もアトランタが最後となり、その後は、通常の観光旅行にはない古代から中世の建築物を中心に視察する企画になっていきました。毎回、海外研修に先立っては、担当委員の方々が精力的に当地の建築物や歴史を下調べされ、さらに綿密に練られた計画の上で視察いたしますので、本当に充実したJSCAにふさわしい内容の視察研修となっております。私は2度参加させて頂きましたが、今でも各地の建物や同行して戴いた方々

との思い出が鮮明に残るほどです。残念ながら、参加には1週間程度の休暇を取る必要がありますので、なかなか若手の方々の参加が少ないことですが、行く先々で大きな刺激を受け、また、いろいろな方々との交流も深めることができ、構造設計者として必ず貴重な糧となりますので、特に若手の皆様には機会があれば、ぜひ一度は参加してほしいと切望しております。



- 1988 「韓国（ソウル・慶州）」（大韓建築学会と懇談、オリンピック施設・古墳公園見学）
- 1989 「最近の高層建築視察、マレーシアIEM及びACEM、シンガポールIESとの懇談」
- 1990 「ニューヨーク最新建築事情視察」
- 1991 「バルセロナオリンピック施設、セビリア万博施設現場見学、グラナダ」
- 1992 「オーストラリア最新建築視察」
- 1993 「ロンドン・パリ建築視察」
- 1994 「ギリシャ建築事情視察」
- 1995 「アトランタオリンピック施設を中心に」
- 1996 「トルコ（イスタンブール・カッパドギア他）」
- 1997 「北欧（ヘルシンキ、ストックホルム、サンクトペテルブルグ）建築の視察」

- 1998 「中欧（ベルリン・ウィーン・プラハ）建築視察」
- 1999 「イタリア（ローマ・バーリ・ナポリ）建築視察」
- 2000 「エジプト視察」
- 2001 「アメリカ（ニューヨーク・ソルトレイク）建築視察」
- 2002 「北スペイン・ポルトガル建築視察」
- 2003 「バルト三国（エストニア、ラトビア、リトアニア）建築視察」
- 2004 「ミラノ・マルタ島建築視察」
- 2005 「南仏プロヴァンス地方（ニース・アヴィニョン・マルセイユ他）の建築視察」
- 2006 「北仏ノルマンディ地方（モンサンミッシェル・ルアール他）の建築視察」
- 2007 「チュニジア、ドーハ」
- 2008 「クロアチア」



技術委員会のあゆみ

技術委員長
(株)日建設計
多賀 謙蔵

100号記念号を迎えるにあたり、技術委員会のあゆみを振り返って見ました。スタートは25年も前のことで、100号におよぶがStructure Kansai誌の情報蓄積が大いに役立ちました。

分科会活動

分科会活動に関する最初の紹介は1983年6月号に次のように記されています。「関西支部の技術委員会は本部の部会と対応させて、6つの分科会（地盤・基礎、鉄骨、RC、PCプレファブ、コンピュータ、耐震設計）を設置し、いよいよ組織的に活動する運びとなりました。……」このようにしてスタートした分科会は、表1に示すように、その後木構造、構造計画、（性能設計→）法制の3分科会が加わり、また名称を若干変えながら現在の9分科会の構成に至っています。同号に次のような呼びかけもあります。「……分科会の予定はストラクチャー関西に早めに記述していきますが、タイミングがありますので、自分の関心のある事は分科会の世話役に連絡して情報をつかんでください。複数の分科会に参加できるように運営しています。会員の積極参加を期待しています。」メールのない時代の情報伝達方法の懐かしさも感じますが、会員全員に開かれた分科会であるという精神は今も変わりません。一方でこの後も会員の積極参加を呼びかけるメッセージが何度も掲載されており、この悩みも今も変わらず、というところでしょうか。

定例研究会

まず、記念すべき創刊号から、技術委員会の船出に関する林保氏の記述を引用させていただきます。当時は、第一委員会、第二委員会という組織構成だったようです。

「……関西支部の組織は、組織、広報、財務を担当する第1委員会と、事業、技術を担当する第2委員会で構成されている。そして、第2委員会は構造設計の技術面を直接論議し、技術面の向上を計る中心的な存在である。（中略）技術委員の活動は、本部技術委員会のテーマを分担することの他、6、9、12、3月の年4回に定例研究会を開くこととした。この世話役幹事は真塚さんに、実行委員を岡嶋、辻、宇藤、出口さんをお願いすることにした。第1回目の研究部会は、来る6月26日午後3時～5時まで関西建築会館に於いて、「薄板鋼構造 その1」他のテーマについて行う予定である。多数会員の参加を望みたい。……」

このように、定例研究会の開催が技術委員会の活動の骨子のひとつとしてスタートしています。表2に技術委員会が担当したと思われる定例研究会、講習会等を列挙してみました。記載以外に見学会や最近ではサテライト主催の講演会などもありますが、ここでは割愛させていただいています。タイトルを眺めると、各分科会が担当してその時々課題や関心事を取り上げてこられたことがよくわかるとともに、「阪神・淡路大震災」「性能設計」「耐震偽装」といった構造設計にかかわる大きな事象については、分科会の枠を超えて数回にわたって開催され、そのインパクトの大きさがいまさらのよう思い出されます。

構造設計ゼミナール

当初は年4回を目指してスタートした定例研究会ですが、見学会は事業委員会主催となったこと、また震災の影響もあったのでしょうか、この10年ほどは5月の通常総会時に集中的に実施するスタイルが定着してきたようです。一方で2005年11月に発覚した構造強度偽装問題を機に、改めて私たち構造設計者の職責を強く意識したJSCA関西支部の活動方針が2007年4月に打ち出され、その第一に「職能研鑽支援として研修会活動を強化する」ことが掲げられました。これを受けて同年11月からスタートしたのが技術委員会が担当する「構造設計ゼミナール」です。その目的は「社会的信頼を得る為に、構造設計のレベル向上を目指し、会員外を含めた研鑽活動を実施することであり、「一方的講義ではなく、実務者同士の議論により技術上・倫理上の問題点を掘り下げていく」ことを目指しています。

定例研究会が重要行事として定着してきた反面、分科会活動が見えにくくなってきた懸念を解消することも意識し、分科会活動の“見える化”も兼ねて各分科会の持ち回りで、2ヶ月に1回程度のペースで既に7回実施してきました。各回の様子をストラクチャー関西に掲載していただいていますので詳細はそちらに譲りますが、おかげさまで会員外の方も含めて毎回多くの方に参加いただき、まずは順調に滑り出しています。継続していくにはエネルギーを要する事ではありますが、皆様の積極的なご参加が最大のエネルギー源となります。今後もぜひ一緒に技術委員会活動を盛り上げていただくよう、お願い致します。

表1 関西支部技術委員会の変遷

1983	鉄骨	RC	地盤・基礎	PC・プレファブ	コンピュータ	耐震設計	
1990							木構造 構造計画
}			地盤系	工業化・PC			└─┬─┘ 木構造・構造計画合同
2000				PC・工業化			└─┬─┘ 木構造 構造計画 性能設計
}	金属系				情報システム		└─┬─┘ 木構造 構造計画 構造性能
2008	金属系	RC	地盤系	PC・工業化	情報システム	耐震設計	木構造 構造計画 法制

表2 技術委員会担当の定例研究会等（見学会、サテライト活動は除く）

1982 年度	6月	薄肉鉄骨の設計 先輩構造家に聞く	1992 年度	3月	シンポジウム「立体応力解析」	
	10月	PRCの構造設計監理 地震力に対する基礎設計指針	1993 年度	5月	構造設計上適切な剛性評価とは？	
	2月	構造物評価の現状と問題点 大阪地域における地震入力について 先輩構造家に聞く		10月	講演会「柱・梁接合部の合理化を考える」	
1983 年度	2月	「PC・PRC構造の現況」 PC・PRCの構造技術訪米調査報告 PC・PRCの技術の紹介	1994 年度	1月	「最近の工業化構法について」	
1984 年度	11月	講習会「入門RC構造」 行政からみたRC構造設計 構造設計を考える 構造設計例		5月	建築家との関わり —身近な建物の設計を通じて—	
	2月	最近の杭工法について	9月	ゼミナール「耐震設計に関する研究者と 実務家の接点について」		
1985 年度	4月	講習会「最近の建築鉄骨について」 建築鉄骨の問題点 建築鉄骨の設計 溶接技術の最近の進歩と今後の傾向	1995 年度	5月	パネルディスカッション 「阪神・淡路大震災からの提言」	
	9月	講習会「建築基礎設計のための地盤調査 計画指針」		11月	講演会「SEAOC Vision-2000について」	
	3月	講演会「メキシコ地震を考える」 基礎および地盤 上部構造の設計	12月	パネルディスカッション 「阪神・淡路大震災からの提言（Part2）」		
	1986 年度	4月	PRC構造の特性とコスト PRC構造設計チェックポイント PC・PRC構造設計資料ノート PC・PRC構造設計監理チェックポイント PD	1996 年度	5月	「大阪城天守閣平成の大改修」
2月		講習会「入門鉄骨構造」 特別講演 構造設計例	1997 年度	5月	「これからの耐震改修」	
1987 年度		4月		基礎構造における実務上の問題点	11月	講演会「性能規定と性能設計」
		10月		講演「アメリカの建築事情と木造建築物 の実情」	12月	講演会「性能規定と性能設計」
1988 年度	7月	「制振構造」	2月	講演会「性能規定に向けての 構造性能評価」		
1989 年度	2月	講演会「木の文化・石の文化」	1998 年度	3月	研究報告会「杭基礎の耐震設計を考える」	
	9月	記念講演会「塔の思想」 「塔のテクノロジー」		5月	「性能指向で取り組んだ構造設計事例」	
	10月	「コンクリート建築構造物の工業化の現 状と将来」工業化生産の現状 大安つけもの工房の設計と施工 呉そごう百貨店の事例 合成床版の現状とコスト	11月	講習会「地盤の液状化について」		
1990 年度	4月	「建築鉄骨のロボット溶接について」 建築鉄骨のロボット溶接について、溶接 ロボットの開発状況、鉄骨加工業界の適 用状況、設計者から見たロボット溶接に ついて	1999 年度	5月	「伝統的木造建築物を考える」	
	5月	シンポジウム「保有耐力を考える」 保有水平耐力の現状と問題点、簡便な保 有水平耐力の検討法、偏心を有する構造 物の保有水平耐力	1月	報告会「台湾集集地震調査報告」 「JSCA構造設計規準中間報告」		
	2月	講演会「入門SRC造」	2000 年度	5月	「阪神・淡路大震災から5年」 公開勉強会	
	1991 年度	5月	JIA、JSCAジョイントP.D 「建築鉄骨の柱・梁仕口部に関する諸問 題について」	7月	講演会「柱梁接合部の挙動と骨組みの 保有水平耐力」	
12月		講演会「わかりやすい鉄骨監理」 「はじめてのPC・PRC構造」	11月	公開勉強会「改正基準法の告示、法令と コンピュータツール」		
1992 年度			2001 年度	5月	「循環型社会としての環境問題を考える」 公開勉強会「改正基準法と（財）日本建築 総合試験所での性能評価」	
			8月	公開勉強会「杭頭部を剛結しない接合方を 考える」		
1993 年度		2002 年度	5月	「基礎設計資料集と新しい基礎の制御 技術を用いた基礎構造の事例」		
		2003 年度	4月	講習会「木造軸組の新しい耐震設計と 改修事例」		
1994 年度		5月	「サブストラクチャの構造とデザイン」			
		2004 年度	5月	「性能規定型の新しい木造耐震設計に ついて」		
1995 年度		1月	シンポジウム 「阪神・淡路大震災から10年」			
		2005 年度	5月	「耐震工法としてのPC・PCaの活用」		
1996 年度		4月～	講習会「木造軸組の新しい耐震設計が マスターできる講習会」			
		2006 年度	5月	「安心・安全な社会を目指して」 ～耐震偽装事件と職業倫理をめぐる 問題について～		
1997 年度		2007 年度	5月	「安心・安全な社会を目指してPART2」 ～住宅・建築物の耐震化と構造法令の 改正をめぐる諸問題～		
		2008 年度	5月	「安心・安全な社会を目指してPART3」 ～構造設計者の展望は？ 建築基準法改正から1年を経て～		

■ バックナンバーの紹介

これまでの関西の構造技術の歩みを振り返り、今後の進むべき方向を考えるための資料として御活用いただくべく、Struture Kansaiの第1号から第99号までの主要記事をその時代の建築関係の出来事および社会的な出来事と合わせて紹介します。

年	号	Structure Kansai の主な内容	建築関係の出来事	社会的な出来事
1982	1 2	・構造家懇談会関西支部設立 ・新耐震設計法実施1年を経過して ・建築構造物の歴史を紐解くにあたって	・構造家懇談会関西支部設立	・ホテルニュージャパン火災 ・日航機逆噴射で羽田沖に墜落 ・フォークランド紛争 ・500円硬貨発行
1983	3 4 5	・構造家懇談会関西支部発足1年を省みて ・定例研究会報告「PRC構造とアンボンド工法」 ・構造家懇談会関西支部総会開催 ・今後の支部活動および運営について ・大阪築城400年まつりを迎えて ・技術委員会分科会の活動状況について	・日本海中部地震(M7.7) 死者104名(津波による被害大)	・東京ディズニーランド開業 ・「おしん」ブーム ・ロッキード事件田中元首相に実刑判決 ・戸塚ヨットスクール事件
1984	6 7 8 9	・建築構造物の歴史を紐解くー野村銀行本店 ・構造設計を考える(会員のページ) ・アメリカにおけるPC構造の最新事情を視察して ・安藤忠雄氏おおいに語る ・第1回JSCA関西構造家賞受賞によせて ・建築構造物の歴史を紐解くー阪急ビルディング ・建築主から見た構造設計雑感 ・地震力に対する基礎の設計指針について(技術レポート)	・大阪ターミナルビル竣工	・グリコ・森永事件 ・ロサンゼルス・オリンピック開催
1985	10 11 12	・大阪における最近の大型建築物の紹介 ・第2回JSCA関西構造家賞受賞によせて ・久徳支部長日本建築学会賞受賞 ・固形タブについて(技術委員会報告)		・つくば科学万博開催 ・日航機墜落 ・阪神タイガース21年ぶり優勝
1986	13 14 15 16	・メキシコ地震とトラテロルコ住宅団地 ・建築構造物の歴史を紐解くー大阪神ビルディング ・第3回JSCA関西構造家賞受賞によせて ・定例研究会報告「PRC構造の特性とコスト」 ・21世紀をめざす関西の大規模プロジェクト ・構造法令専門者制度 発足		・スペースシャトル爆発事故 ・チェルノブイリ原発事故 ・道路交通法改正(シートベルト着用義務化)
1987	17 18 19 20	・各府県会員の声 ・関西支部5年の歴史 ・第4回JSCA関西構造家賞受賞によせて ・支部運営及び広報のアンケート調査結果 ・平田定男氏建設大臣賞受賞	・建築基準法改正 (木造3階建て可能に)	・バブル経済(日経平均株価2万円突破) ・国鉄民営化JRへ ・大韓航空機爆破事件 ・ブラックマンデー(世界の株式大暴落)
1988	21 22	・木構造の可能性 ・第4回JSCA関西構造家賞受賞によせて ・韓国オリンピック施設見学記 ・韓国建築事情		・リクルート事件 ・青函トンネル完成 ・瀬戸大橋完成 ・ソウルオリンピック開催
1989	23 24 25	・構造家への要望(既成杭・場所打杭・鉄筋工事業者) ・(社)日本建築構造技術者協会 設立 ・新組織に思う ・(社)日本建築構造技術者協会関西支部 設立総会開催 ・(社)日本建築構造技術者協会関西支部 組織及び支部役員 ・JSCA賞によせて	・(社)日本建築技術社協会設立	・昭和天皇逝去 ・昭和から平成へ ・消費税実施 ・北京天安門事件 ・ポーランド・ハンガリー民主化革命 ・田中角栄引退
1990	26 27 28	・「国際花と緑の博覧会」工事中航空写真 ・定例研究会の報告「建築構造物の構造物の現況と将来」 ・JSCA関西構造家賞 受賞感想文 ・関西支部アンケート結果の報告(法人化としての社会的役割) ・保有水平耐力を考える。 ・海外視察報告「ニューヨーク最近建築事情視察」	・「国際花と緑の博覧会」建設工事	・ドイツ統一成る ・イラク軍クウェート侵攻 ・「国際花と緑の博覧会」開催 ・株価暴落バブル崩壊始まる。 ・日本人初の宇宙飛行(秋山豊寛)
1991	29 30 31	・構造技術士への期待 ・シンポジウム「震度6その時どうなる」 ・JSCA関西構造家賞 武庫川学院中高部プール開閉屋根の構造設計 ・ロボットによる全自動ビル建設・最新の混合構造 ・「建築構造士精度」資格認定についてのパネルディスカッション ・地震工学の特殊な概念の英訳に関する提言	・「建築構造士」精度についての検討 始まる。	・ソ連邦消滅 ・大手証券会社の巨大損失補償問題化 ・島原半島普賢岳噴火 ・フィリピン・ピナポウト火山大噴火 ・信楽高原鉄道衝突事故
1992	32 34 35	・支部設立10周年の歩み ・Structure Kansai バックナンバー紹介(1987-1991) ・JSCA通常総会はじめて関西「京都」にて開催 ・JSCA関西構造家賞 受賞決まる ・関西における最近の大型建築の紹介-おもしろ工法あれこれ (中空場所打ちコンクリート工法、埋立地盤における直接基礎工法、耐火鋼 を使用した無被覆の立体駐車場、制震装置VICSを設置した階段・他	・支部設立10周年	・ユーゴスラヴィア解体 ・米シャトル宇宙実果(毛利衛氏同乗) ・バルセロナオリンピック開催 ・公示地価17年ぶりに下落
1993	36 37 38 39	・オーストラリア建築視察報告 ・JSCA京都会発足 ・京都府発足記念講演「合成・混合構造について」の概要 ・第10回JSCA関西構造家賞受賞によせて ・定例研究会「構造設計上適切な剛性評価とは」 ・斜面地特集 ・第6回JSCA関西支部海外研修報告ー欧州建築事情視察	・北海道南西沖地震	・欧州連合条約 ・細川(国民新党)連立内閣 ・冷害で米不足-米部分開放 ・皇太子御結婚

年	号	Structure Kansai の主な内容	建築関係の出来事	社会的な出来事
1994	40	・構造士の認定試験報告―「建築構造士」について ・会員雑感	・関西空港開港	・米シアトル向井千秋同乗 ・国産ロケットH2打上げ成功 ・村山内閣 ・金日正死去
	41	・関西の活断層特集(虫の目、鳥の目、なまずの目)		
	42	・日本在住の外国人技術者に聞く		
	43	・構造用圧延鋼材 JIS G3136-1944		
	44	・座談会「デザイナーが感じた構造設計でのコンピューター利用について」		
1995	44	・関空特集「関西国際空港旅客ターミナル建設プロジェクトを振り返って」		
	45	・体験・阪神大震災	・阪神・淡路大震災(M7.3) 死者6434名	・地下鉄サリン事件
	46	・1995年 阪神・淡路大震災『行政の立場からの要望及び提言』		
	47	・なみはや国体に向けての大空間プロジェクト ・兵庫県南部地震 被害建物の復旧の実際		
1996	48	・震災復興―生田神社、そごう神戸店、大丸神戸店		・アトランタオリンピック開催
	49	・パネルディスカッション報告「阪神大震災からの提言」		
	50	・定例研究会報告「大阪城天守閣 平成の大改修」		
	51	・特集「耐震診断・耐震改修」		
1997	52	・阪神大震災から2年―復興は新技術―		
	53	・第1回JSCA関西支部若手技術者育成講座開催 ・大阪ドーム誕生にあたって	・京都駅ビル竣工 ・大阪ドーム竣工	・地球温暖化防止京都会議 ・サッカーW杯フランス大会に日本代表初出場 ・香港の中国返還
	54	・定例研究会報告「これからの耐震改修を考える」		
	55	・鉄骨柱・梁接合部について―建築学会近畿支部鉄骨構造部会シンポジウムを中心に―		
1998	56	・JSCA関西15周年記念事業「茶の湯とラグタイム・ピアノのタベ」		・長野冬季オリンピック開催
	57	・「性能設計だより」		・明石海峡大橋完成
	58	・定例研究会報告「性能指向で取り組んだ構造設計事例」		
	59	・特集「関西のビッグプロジェクト」		
1999	60	・特集「おもしろ構法紹介」		
	61	・特集「教育現場をさぐる―構造技術者が教壇に―」	・なら100年会館竣工	・台湾集集地震
	62	・定例研究会報告「伝統木造建築物を考える」		
	63	・特集「民間確認検査機関の開設と中間検査の導入」		
2000	64	・2000年新春号		
	65	・海外地震視察報告(トルコ・台湾)	・鳥取県西部地震(M7.3)	・2000年問題
	66	・定例研究会報告「阪神・淡路大震災から5年」	・建築基準法改正(性能規定化)	・シドニーオリンピック開催
	67	・建築基準法改正に伴う行政対応情報 ・日本建築総合試験所における性能評価、認定、確認検査	・淡路夢舞台竣工	・2000円紙幣発行
2001	68	・中国建築事情 ・インドネシア・ジャカルタ建築事情	・芸予地震(M6.7)	・アメリカ同時多発テロ事件
	69	・ユニバーサルスタジオ・ジャパン いよいよオープン	・JSCA兵庫会発足	・アメリカのアフガニスタン侵攻
	70	・鳥取県西部地震調査報告	・ユニバーサルスタジオ・ジャパン開園	
	71	・「建築用語集」―市民との対話に向けて― ・定例研究会報告「循環型社会としての環境を考える」 ・第3回公開勉強会「構造性能評価と日本建築総合試験所」		
2002	72	・関西における最近の耐震改修事例	・USJ	・牛肉偽装事件
	73	・最近の関西における住宅の動向―超高層から低層住宅まで―		・初の日朝首脳会談
	74	・定例研究会報告「基礎設計資料集と新しい基礎の制御技術を用いた基礎構造の事例」		・小柴氏、田中氏ノーベル賞受賞
	75	・京都ならではの建物紹介―旧いものから新しいものまで―		・サッカーW杯 日韓共同開催
2003	76	・開かれた関西支部を目指して―支部会員の声を直接聞く― ・もうひとつのJSCA―支部間を横断する技術者のネットワーク―	・なんばパークス1期 ・宮城県沖地震	・米英軍がイラクに侵攻
	77	・頑張ってます!―若手構造技術者講座OBの活躍―	・十勝沖地震	・SARS大流行
	78	・JSCA奈良会発足	・宮城県北部地震	・北朝鮮核問題
	79	・定例研究会報告「サブストラクチャーの構造デザイン」 ・性能設計その後、サブストラクチャーの構造デザイン その2		・世界各地で爆弾テロ多発 ・スペースシャトルが空中分解
2004	80	・Structure Kansai 20周年によせて ・東南海・南海地震	・新潟県中越地震	・自衛隊イラク派遣
	82	・定例研究会報告「性能規定型の新しい木造耐震設計について」		・アテネオリンピック
	83	・大阪平野の地震動予測 ・耐火設計関連の最新情報		・北朝鮮拉致問題 ・三菱欠陥車事件 ・台風最多上陸
2005	84	・震災10年事業 構造展	・京都迎賓館	・JR福知山線脱線事故
	85	・シンポジウム「阪神・淡路大震災から10年」 ・コンバージョン	・建築基準法改正 (既存不適格建築物に対する規制の合理化)	・愛知万博開催
	86	・大地震の前兆:断層運動の力学から電磁気学へ ・定例研究会報告「耐震工法としてのPC・PCAの活用」	・パキスタン大地震 ・福岡県西方沖地震、宮城県沖地震	・ロンドン同時爆破テロ
	87	・建築基準法一部改正「既存不適格建築物に対する規制の合理化」 ・「津波」―津波予測技術の現状と課題― ・JSCA関西のホームページが新しくなりました	・E-ディフェンス運用開始 ・耐震強度偽装事件 ・アスベスト問題	・東南アジア・中国で鳥インフルエンザ
2006	88	・積層の家 ・地震前兆の科学Ⅰ:断層運動のスケーリング則	・耐震強度偽装事件社会問題化 ・国交省:既存マンション耐震性サンプル調査	・ライブドア事件
	89	・耐震偽装問題へのJSCA関西の対応 ・E-ディフェンス	・全国に強度不足建物発覚 ・建築基準法改正の公示	・トリノ五輪 フィギュア荒川静香選手「金」 ・WBC 日本 初代王者
	90	・PD「安心・安全な社会をめざして」 ～耐震偽装事件と職業倫理をめぐる諸問題について～	・耐震改修促進法改正 ・西本願寺御影堂平成大修復	
	91	・社会資本整備審議会建築分科会基本制度部会報告書(案)に関する意見について		
2007	93	・大阪市域の地震想定被害の見直し	・改正建築基準法施行 (適合性判定制度始まる)	・食品偽装問題
	94	・PD「安心・安全な社会をめざしてPART2」 ～住宅:建築物の耐震化と構造法令の改正をめぐる諸問題～	・なんばパークス2期 ・能登半島地震	・遊園地コースターで死亡事故 ・安部首相辞任 ・郵政民営化
	95	・改正建築基準法がスタートして何が変わったか ・追悼 関西支部初代支部長 久徳敏治(名誉会員)さんを偲んで	・新潟県中越沖地震	
2008	96	・建築基準法改正後、半年が経過して ・構造設計セミナーの開催	・岩手・宮城内陸地震 ・四川大地震	・原油高、物価高 ・イージス艦衝突事故 ・中国製冷凍ギョウザ毒物検出 ・チベット騒乱
	97	・御堂筋の歴史について		・北京オリンピック
	98	・PD「安心・安全な社会をめざしてPARTⅢ」 ・構造設計者の展望は? 建築基準法改正から1年を経て-		・福田首相辞任
	99	・JSCA関西支部創立25周年 第2回記念事業 「未来を語ろう 建築・地球そして未来」		・オバマ氏アメリカ大統領

(執筆担当委員:大住、白髪、藤井、三輪)

■作品介绍 INDEX No.1号～99号

Struture Kansaiでは、これまで沢山の新築建物を紹介してきました。100号を記念し、第1号から第99号までに掲載された建物のうち、設計者自らをご紹介いただいた作品をINDEXの形でまとめました。掲載号とともに振り返ると、それぞれの時代を代表する関西の建物がそろっています。資料としてご活用ください。

掲載号	年 月	建物名	建築場所	用途	構造種別	階数 地上/地下	高さ (m)	延べ面積 (㎡)	設計者	施工者
99	2008/10	シティタワー大阪天満 ザ・リバー&パークス	大阪市北区	住宅	RC	45/1	軒高:148.0	72,600	大林	大林
99	2008/10	ザ・北浜タワー	大阪市中央区	住宅	RC	54/1	軒高:207.7	56,845	三菱地所設計・日本設計・ 長谷工エンジ・鹿島	鹿島
97	2008/4	淀屋橋第一種市街地再開発事業A棟/B棟	大阪市中央区	事務所、店舗	地上:S、CFT 地下:SRC、RC	16/4 16/3	建物高さ:SGL+67.6	約46,700 /44,800	日建	竹中/大林
95	2007/10	高島屋京都店耐震改修(制震補強)	京都市下京区	百貨店	RC	7/2	軒高:31.0 最高高さ:38.0	41,855 (本館のみ)	大林	大林
93	2007/4	東宝南街ビル/ TOHOシネマズなんば+なんばマリイ	大阪市中央区	映画館、店舗	SRC、S	12/2	最高高さ:62.6	35,909	竹中	竹中
92	2007/1	大阪弁護士会新会館	大阪市北区	事務所	S	14/2	建物高さ:SGL+55.2	17,000	日建	
91	2006/10	ストロングビルディング	兵庫県神戸市	店舗、事務所	RC(床版・壁) S(柱)	8/0	建物高さ:25.2	7,270	竹中	竹中
91	2006/10	フジテック㈱滋賀2期建設工事研究塔	滋賀県彦根市	エレベータ研究塔	RC	40/2	最高部高さ:168.6	38,000	日建	大林
91	2006/10	宗教法人天聖真美会宣教本部 八光神殿	滋賀県草津市	教会	屋根:S 柱:SRC、RC	2/0	最高高さ:39.3	11,302	大林	大林
88	2006/1	積層の家	兵庫県神戸市	住宅	RC,PC	3/0	高さ:8.2	76	設計:大谷弘明 構造:陶器浩一、北條稔郎 PC設計協力:ピーエス三菱	丸公建設
87	2005/10	オリックス高麗橋ビル	大阪市中央区	事務所	地上:S 地下:RC	8/1		9,613	設計:フアンテカ総合計画事務所 構造:竹中&アルファ構造	竹中
75	2002/10	本願寺大師堂(御影堂)保存修理	京都市下京区	堂	W	1/0	高さ:約30.0	9,400	建築研究協会	大林
75	2002/10	京都迎賓館	京都市上京区	迎賓施設	RC (一部SRC、S)	1/1 (一部2F建て)	軒高:約7.6	16,000	日建	大林・竹中・鹿島
75	2002/10	京都大学百周年時計台記念館	京都市左京区	記念館	RC	2/0	最高高さ:31.6	5,312	清水	清水
75	2002/10	宮津成相寺五重塔再建	京都府宮津市	仏塔	W	5/0	最高高さ:33.9	90	竹中	竹中
73	2002/4	瓦町マンション	大阪市中央区	住宅	地上:S 地下:RC	50/0	最高高さ:169.8		浅沼・日建	浅沼
73	2002/4	阿倍野A1地区第2種市街地再開発事業A3棟	大阪市阿倍野区	住宅	RC	40/1	軒高:132.0 最高高さ:144.0	46,749	大阪市、安井	
73	2002/4	夕陽丘イクス	大阪市天王寺区	住宅	RC	21/1	軒高:70.4 最高高さ:75.5	9,499	鹿島	鹿島
73	2002/4	ローレルコート難波	大阪市浪速区	住宅	RC	28/1	軒高:89.2 最高高さ:99.0	33,461	レルシティ西開発、鹿島	鹿島
73	2002/4	くずはタワーシティT棟	大阪府枚方市	住宅	RC	42/1	軒高:133.3 最高高さ:136.8	32,719	竹中	竹中
73	2002/4	阿倍野D3-1分譲住宅	大阪市阿倍野区	住宅	RC	15/1	最高高さ:52.2	12,922	大林	大林
72	2002/1	大阪豊田ビル耐震補強	大阪市中央区	店舗、事務所	SRC	9/3	高さ:31.0	21,000	竹中	竹中
72	2002/1	大阪府庁別館制震補強	大阪市中央区	事務所	SRC,RC	7/3	最高高さ:40.65	29,500	日建	大林
71	2001/10	摩耶シーサイドプレイス東街区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ番館	神戸市東灘区	住宅	RC	15/0			大成	大成
71	2001/10	光華女子学園60周年記念棟	京都市右京区	大学	RC	6/1	高さ:25.5	3,769	京都建築事務所	
69	2001/4	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	大阪市此花区	テーマパーク					第1工区:大林JV13社 第2工区:鹿島JV12社 第3工区:竹中JV13社	第1工区:大林JV13社 第2工区:鹿島JV12社 第3工区:竹中JV13社
69	2001/4	ホテル近鉄ユニバーサル・シティ	大阪市此花区	ホテル	S	25/0	最高高さ:97.00 軒高:92.6	23,995	竹中	竹中
69	2001/4	ホテル京阪ユニバーサル・シティ	大阪市此花区	ホテル	SRC、S	20/0	建物高さ:83.3 軒高:82.7	17,220	日建	前田建設工業
64	2000/1	ホテルモントレ大阪	大阪市中央区	ホテル	S、SRC	14/2	最高高さ:64.0	約24,000	大林	大林
64	2000/1	梅田ダイビル	大阪市北区	事務所	S、SRC	23/3	高さ:120.8	42,360	日建	大林・銭高・竹中・鹿島
63	1999/11	大阪市中央公会堂レトロフィット	大阪市北区		S、レンガ	3/2		9,970	大阪市住宅局営繕部、 坂倉・平田・青山・新日設設計JV	
63	1999/11	鴻池本社ビル		事務所	本館:SRC 南館:SRC 新館:SRC 東館:RC	9/3 9/2 12/2 9/0	軒高:31.0 軒高:31.0 軒高:43.7 軒高:30.2	17,814 6,840 12,444 2,619	鴻池	鴻池
61	1999/4	HEP FIVE	大阪市北区	商業施設	S	10/3	高さ:48.8	52,755	竹中	竹中
60	1999/1	NHK大阪放送会館及び大阪市立新博物館・ 考古資料センター複合施設遺構保存	大阪市中央区	放送局・劇場・博物館	NHK: 博物館:	18/3 13/3	建物高さ:134.9 建物高さ:83.3	89,986	日本設計	大林・竹中・戸田・三井・安藤
60	1999/1	愛媛県美術館	愛媛県松山市	美術館	PC	3/1	軒高:18.5	10,920	日建	大成・野間工務店
60	1999/1	中ノ島MTビル	大阪市北区	事務室、店舗	S	23/4	軒高:99.9 最高高さ:104.9	54,697	日建、竹中	竹中
59	1998/10	ガーデンシティ西梅田ビル 教育施設部	大阪市北区	教育施設	S	21/3	建物高さ:75.5 最高高さ:100.3	31,657	鹿島	鹿島
59	1998/10	ガーデンシティ西梅田ビル ホテル部	大阪市北区	ホテル	S	18/3	建物高さ:60.5 最高高さ:70.3	15,554	日本設計	

掲載号	年 月	建物名	建築場所	用途	構造種別	階数 地上/地下	高さ (m)	延べ面積 (㎡)	設計者	施工者
59	1998/10	ガーデンシティ西梅田ビル 事務所部	大阪市北区	事務所	S	23/3	軒高:99.9 最高高さ:105.2	46,834	日本設計・大和ハウス	
59	1998/10	大阪国際会議場	大阪市北区	会議場	S、SRC、RC	13/3	91.6	67,545	Ove Arup&Partners	竹中・大林・フジタ・銭高・松村・ ジャール・西武・大鉄・大末・今西
59	1998/10	灘・日の出町N地区	神戸市灘区	住宅	RC	33/1	建物高さ:114.2	30,433	基本設計:住都公団関西支社 実施設計:大林組	大林・ナカノ建設
53	1997/4	大阪ドーム	大阪市西区	その他(商業)、 屋外体育施設、会館 、体育館	SRC	9/1	最高高さ:83.09	156,408	設計監理:日建 設計協力:竹中、大林、電通	大林・竹中・清水・前田・ 大日本土木・鴻池・奥村・ 鴻池・奥村・フジタ・西松・ 銭高・熊谷
52	1996/10	住友海上神戸ビル	神戸市中央区	事務所	RC、SRC	11/2	建物高さ:GL+44.6 (軒高)	12,140	日建	大成・三井住友・鹿島・竹中
52	1996/10	メロディハイム芦屋浜	兵庫県芦屋市	住宅	RC	6/0	軒高:17.0	3,464	奥村	奥村
52	1996/10	ニッセイ新三宮ビル	神戸市中央区	事務所	S	16/2	61.7	12,988	大林	大林
52	1996/10	三宮ビル南館	兵庫県神戸市	事務所	S	17/4	最高高さ:73.2	33,709	竹中	竹中
50	1996/9	大阪城天守閣大改修	大阪市中央区	博物館・資料館	SRC	8/0	58.0	5,071	大林、東畑	大林
48	1996/1	生田神社震災復興	神戸市中央区	神社	W	1/0	軒高:5.00 最高高さ:11.00	108	竹中	竹中
48	1996/1	そごう神戸店震災復興	神戸市中央区	百貨店	RC、SRC		西棟:7/2 東棟:9/2 中央北棟:7/2 中央南棟:11/2		大成	大成
48	1996/1	大丸神戸店震災復興	神戸市中央区	百貨店	RC	7/1 (一部B2F)	建物高さ:42.28	34,775	日建、双星	大林JV
47	1995/11	八幡屋プール	大阪市港区	スポーツ施設					東畑	フジタ・鴻池・藤木
47	1995/11	舞洲アリーナ	大阪市此花区	スポーツ施設	SRC、RC、S	4/0	最高高さ:30.55	17,221	大阪市、安井	鹿島・不動・東洋
47	1995/11	長居陸上競技場	大阪市東住吉区	スポーツ施設	RC、S、SRC	5/0	最高高さ:GL+44.5	52,300	昭和	竹中・フジタ・鴻池
47	1995/11	大阪府立門真スポーツセンター	大阪府門真市	スポーツ施設	RC、S、SRC	3/1	建物高さ:42.6	37,661	昭和	竹中・鴻池・浅沼・住友・ 東海興業
47	1995/11	大阪市立新中央体育館	大阪市港区	スポーツ施設	RC、PC	0/3	最後高さ:30	42,665	日建	大林・西松・浅沼
44	1995/2	関西国際空港旅客ターミナルビル	大阪府泉佐野市	旅客ターミナル	S、SRC	4/1	最後高さ:36.54	294,000	RPBW・バリ空港公団 日建・JAC	竹中・大林
43	1994/12	大同生命本社ビル	大阪市西区	事務所、店舗	S、SRC	19/3	最高高さ:85.5 軒高:83.6	38,810	日建	銭高・清水・村本 大成・大林・竹中
43	1994/12	神戸朝日ビルディング	神戸市中央区	文化施設、事務所	S、RC、SRC	26/2	最高高さ:GL+111.9	28,215	竹中	竹中
33	1992/5	神戸ハーバーランドセンタービル	神戸市中央区	事務所、ホテル、店舗	オフィス棟:S、SRC ホテル棟:S、SRC ショッピング棟:SRC	23/3 17/3 5/3	軒高:93.0 軒高:67.0 軒高:28.0	115,000	日建	竹中JV
33	1992/5	新梅田シティ開発計画(事務所棟)	大阪市北区	事務所	S、RC	40/2	最高高さ:GL+173.0	161,289	アトリエΦ 木村俊彦 竹中	竹中
33	1992/5	ミズノクリスタ	大阪市住之江区	事務所	S、SRC、RC	31/3	高さ:147.0	47,000	日建	銭高・鹿島・大林・鴻池
33	1992/5	桜ノ宮リバーシティ ウォータータワープラザ	大阪市都島区	住宅	RC	41/1	軒高:SGL+129.3	47,114	大林	大林
33	1992/5	阪急茶屋町ビルディング	大阪市北区	ホテル、事務所、 劇場、店舗、他	S、SRC	34/3	高さ:161.0	96,600	竹中、シアターデザイン	竹中
33	1992/5	弁天町プロジェクト・ORC200	大阪市港区	A-2プロカホテル、事務所 Bフロック住宅、事務所 中・低層部:ミュージアムメント 、健康施設	A-2:RC、SRC、S B:SRC	A-2:50/3 B:50/2	A-2 軒高:188.2 最高高さ:200.0 B 軒高:156.8 最高高さ:167.4	252,964 期・Ⅱ期 全体	安井・昭和・アールアイエーJV	清水・長谷工・鴻池
30	1991/7	武庫川学院中高部プール開閉屋根	兵庫県西宮市	プール	S、RC	2/0	最高高さ:13.4 軒高:7.5	3,023	竹中	竹中
19	1987/9	読売テレビ放送新社屋	大阪市中央区	テレビ放送施設	6階以上:S 5階以下:SRC	14/2	最高高さ:77.3 建物高さ:63.7 軒高:62.9	29,703	日建、鹿島	鹿島
15	1986/8	関西国際空港	大阪府泉佐野市							
15	1986/8	ベル・パークシティ G棟	大阪市都島区	住宅	1階:SRC 2階以上:SRC、S	36/0	軒高:103.3		三井	三井
15	1986/8	大阪府立体育会館改築	大阪市浪速区	多目的体育施設	B2~B1:RC 1~R階:SRC 屋根:S	4/2	軒高:20.2 最高部高:34.4	28,318	大阪府、日建	建築:大林・戸田・鴻池・村本 電気:栗原・浅海・六興 空調:東洋熱・理研・ナシイ 衛生:鳳・川本
15	1986/8	倉敷紡績本社ビル	大阪市中央区	事務所	複合構造	14/2	最高高さ:59.75	16,660	竹中・大林・藤木JV	竹中・大林・藤木
15	1986/8	梅田センタービル	大阪市北区	事務所、店舗	S	32/2	軒高:125.45	80,088	竹中	竹中
10	1985/5	ツイン21	大阪市中央区	事務所、ショールーム	B1~5F:SRC 6F~P1F:S	38/1	軒高:150.0	152,746	日建	A工区:鹿島・竹中・熊谷 B工区:大成・奥村・鴻池・清水 C工区:西松
10	1985/5	都ホテル大阪	大阪市天王寺区	ホテル	S、SRC	21/3	最高高さ:83.198 軒高:78.548	45,524	村野・森	大林
10	1985/5	吉本ビルディング	大阪市北区	ホテル、店舗	ホテル棟8F以上:S 7F以下: SRC、RC 店舗棟:SRC、RC 7トリウム:S	34/4	軒高:GL+136.2 最高高さ:GL+145.0	86,887	竹中	竹中
		・ここに紹介する作品はJSCA関西支部広報誌 1～99号に掲載された作品のうち、設計者自らご紹介いただいている新築及び改修の作品です。 ・現場見学会やその他特集記事で紹介された作品など、誌面の都合でご紹介できない作品も多数ありますが、あしからずご了承ください。 ・設計者、施工者は略称で標記させていただきました。								

(執筆担当委員:石鎧、垣岡、金田、山浦)

■ サテライト会の活動のあゆみ



京滋会のあゆみ

世話人

増田 廣見

発足から17年を迎えるJSCA京滋会の生い立ちについて述べます。

そもそも構造設計技術者の集まりである構造家懇談会から発展的に「(社)日本建築構造技術者協会(JSCA)」になったのが平成元年だったと思います。当時、関西支部の活動に精力的に取り組まれていた故俣野博(当時(株)竹中工務店)さんが、「JSCA支部の活動を活性化するためには、各都道府県単位のサテライト活動を積極的に行う事が必要だ」と提唱されていました。地域の構造設計技術者が、情報の交換をしたり、その地域特有の問題などを話し合ったり相談するといった交流を持つ事は大変有意義なことです。

その第一歩として、俣野さんがお住まいだった京都で活動を始めるよう強い働きかけがあり、魚木晴夫(C&C事務所)さんを中心にサテライト活動を立ち上げる事となりました。京都に加え隣の滋賀県も一緒にということで、平成4年にJSCA京滋会が発足した次第です。たぶん全国で最初のサテライトだったと思います。

数人の有志とどのような活動を行おうかと相談した結果、とりあえず講演会を行う事としました。地区に根ざした活動と言うことで、講師をお願いする先生も京都・滋賀に関わりのある先生をお願いすることとしました。幸い京都・滋賀にはたくさんの大学があり、講演をお願いする先生には恵まれた環境にあります。おかげさまで、平成4年以来17回を数える活動が継続しています。毎回20~30名の参加者があり、最近では京滋会以外の会員の参加も増えている状況です。

普段は身近にお話をする機会のない講師の先生とも、このJSCA京滋会では直接お話ができるいい機会となっています。また講演会後の懇親会では、本音の話が聞けたりして先生の別の一面にも接することができ、有意義なひとときとなっています。

昨今の建築基準法の改正等で、JSCAの今後のあり方についても活発に議論されています。JSCA京滋会も一緒に考え行動してゆきたいと思っています。



兵庫会のあゆみ

代表世話人

久森 敏平

平成12年に、阪神淡路大震災から5年を経過したが、一向に景気はよくなっていない。構造士の地位もなかなか上がらない、このような世の中の不景気を吹き飛ばそうと、神戸を中心に兵庫県下に在住のJSCAメンバーの方々と、将来の建築の話・構造の話・世の中の話等 サロンの会を作ろうと、誰彼となく声が上がり、参加者の呼びかけをおこないました。

JSCA兵庫会の勉強会は、正式に発足するまでの準備会として、平成12年6月山田昭治氏(大阪市立大学大学院講師)による、建築振動入門「動的解析に用いるモーダル・アナシス」、平成12年9月南宏一氏(福山大学教授)による、「新法の限界耐力計算の概念」、平成13年1月 四宮忠明氏(兵庫県県土整備部住宅整備課室長)による、「限界耐力設計法について」計3回行った。

JSCA兵庫会の発足を記念して、平成13年6月22日を第1回目として計9回のシリーズで、神戸大学の日下部馨教授による、「建築振動学の基礎・地盤と建物との相互作用について」の勉強会を開催したところ、延べ約500名の参加者がありました。

平成14年度は、8月に南宏一氏による、「限界耐力設計の実務と問題点」、10月、11月、翌1月の3回にわたり二村誠二氏(大阪工業大学)による、「地球環境と建築生産のあり方」の勉強会を開催いたしました。

平成15年度は、6月に、構造士に限らず、構造設計者の育成にも役立つテーマを設け、活動を計画しましたが、メンバーが多忙になり、これらしい内容がない状態です。

平成17年度は、耐震偽装問題をうけ、神戸市が過去3年分の確認申請について詳細チェック(計128件)を行う事となり、JSCA兵庫会に協力要請がありました。まずは、「神戸市建築構造専門審査会」が設置され、兵庫会から2名が参加し、詳細チェックの審査を行い偽装のないことを確認し、この作業を通じて議論されたことが「今後の構造審査のあり方について」として審査会報告としてまとめられました。平成19年度からは、「兵庫県建築研究会」に合流して勉強会に参加して夫々努力を行っています。

奈良会のあゆみ

幹事

中村 俊治 嶋崎 敦志 中本 明
中西 治夫 峠 政和

この頃すでに10年近い歴史を持っていた京滋会や、それに続く兵庫会がサテライトとして活発な活動を続けておられ「次は奈良でもサテライトを」との声があり会の発足を見たのは平成14年4月のことでした。

もう初夏を思わせる暑い日の夕刻、近鉄奈良駅近くの小さな店に集まった有志5人がまず一步を踏み出そうと意気込んでビールのジョッキを上げたのが出発点でした。

このとき、あまり堅苦しい会則など設けず奈良県在住、在勤の構造技術者の間で技術情報の交換などを通じて、技術の向上や親睦を図るのを目的にしようとなりラフな気持ちの出発でした。

以来6年の間に記憶に残るのは、やはり2004年の末から2005年1月17日にかけて行なわれたシンポジウムや構造展の開催でした。奈良会でも会場探しに走り回ったり、開催が12月18,19日と年末も押し迫った頃で果たして幾人の人が見に来てくれるのかと不安な思いで開催日を迎えたことを思い出します。

そのほか年間1、2回講演会や見学会を行ってまいりましたが、中でも平成18年6月に催された講演会はJSCA理事金箱温氏による「バランスのよい構造を目指して」と奈良会の山浦晋弘、嶋崎敦志、両氏による「構造二次部材のデザインについて」で、多くの奈良会以外の方々にもお申し込みいただき、かなりの盛況で聴講は50名を数える事となり、普段小人数の活動になりがちな奈良会としては大変嬉しいことでした。



サテライト奈良会では講演会や見学会にJSCA会員はもちろん会員外の方の参加も歓迎しております、周囲の方々にも是非お声をかけていただき奈良会の活動にご参集ください。

JSCA関西支部創立25周年 記念事業サマリー



25周年事業委員長
(株)日建設
阿波野 昌幸

■企画立案

JSCA関西支部は、構造家懇談会の関西支部として1982年2月に発足し、昨年の2007年で25年目の節目を迎えました。これを機に2007年1月にJSCA関西25周年事業企画委員会を立ち上げ、記念事業を企画することとなりました。企画委員会発足当時は構造偽装問題に端を発した基準法改正が決まり、今直続く構造技術者の混乱が始まりだした頃であり、その状況の中で如何に活気ある構造家集団を目指すかを考え、この混乱・逆境の中で我々が元気を維持し続ける起爆となる企画を練り続けました。

毎月のように開催した企画委員会では、講演の企画を考える段階では、候補者として様々な分野の方、学者、技術者、文化人、作家、芸能人等を選び、その後絞込んでいきました。いろいろな経緯を経て上記の2回の講演会を開催することにしました。

さらに、600名弱の会員によるJSCA関西支部は全国の活動はもとより、関西支部独自でも様々な活動を企画・運営していることを振り返り、その年譜をまとめる作業も平行して取り組みました。これは第1回の記念事業に資料としてご来場の方々に配布しました。

■第1回記念事業

歴史を振り返ると、政治の中心である関東が比較的「官」主導の社会であるのに対し、関西では「民」主体の社会・文化が育かれ、古くから独特の伝統・文化の蓄積があります。この風土で育ったJSCA関西が技術・文化を通して元気であることを社会にアピールしようとしたのが第1回の企画です。

角支部長から、挨拶の後、配布資料の「JSCA関西のあゆみ」により関西支部発足以来、現在に至るまでの活動の歴史が紹介され、会員の皆様とともに多くの懐かしい企画、事業等を振り返りました。

次に、関西から技術の世界への発信として最も相応しい、実大実験施設Eーディフェンスのセンター長である中島先生にご講演いただきました。世界最大の実大動実験ができる施設を持つ関西に、

- 第1回 2007年11月22日(建設交流会館グリーンホール)
「関西から世界へ発信 ～技術・文化そして元気～」
・挨拶 (15:00～15:15)
「JSCA関西の25年、これからのJSCA」 角 彰 (支部長)
・講演1 (15:15～16:15)
「めざせー関西発コスモポリタン」 中島正愛 (京都大学教授)
・講演2 (16:30～18:00)
「人間構造学」 藤本義一 (作家)
・懇親会 (18:10～20:00)
- 第2回 2008年4月17日(大阪国際会議場)
「未来を語ろう ～建築・地球そして宇宙～」
・企画講演 (15:00～15:30)
「ツールとしての『科学技術』を建築はどう使いこなすか」
江 水 是 仁 (日本科学未来館科学コミュニケーター)
・基調講演 (15:30～16:30)
「未来建築としての宇宙ステーション」
毛 利 衛 (宇宙飛行士、日本科学未来館館長)
・パネルディスカッション (16:40～18:00)
「建築の未来を語ろう」 25周年企画委員会
「あなたが考える建築の未来」 アイデアコンペ参加者

多くの実験見学者を世界中から招き、語り合い、活性化してはとのお話は、まさに本企画の趣旨に副うものでした。



さらに大阪府出身の直木賞作家である藤本先生は「人間構造学」と題してのご講演で、東南海と阪神の2回の震災経験を語られ、終戦後の闇市での経験、大阪人の特徴、「真実・うそ・虚構」の言葉の違い、「男」と「女」の漢字の意味等、文章や言葉に関する興味深い話を柔らかな大阪弁で語られ、聴衆は笑いも交えて大いに盛り上がりました。



■第2回記念事業

第2回の企画としては、現在は日本科学未来館の館長である宇宙飛行士・毛利衛さんをお招きしての講演と、建築の未来に眼を向けて企画・募集したアイデアコンペを中心に催しました。因みに、毛利さんのご講演は年間4回以内と決めら

れており、講演の趣旨や企画内容を日本科学未来館が審査した後、講演が決定するというハードルの高いものでした。また、講演直前の毛利さんとともに行われたリハーサルでは、企画委員による司会、画面切替え操作のタイミング、照明などに対し厳しいご指示があり、繰返し練習が行われ、宇宙飛行士として一瞬のミスも許されない訓練を受けられてきた毛利さんの一端を窺い知ることができました。

リハーサルの後、最初の講演は日本科学未来館科学コミュニケーターの江水さんによるご講演で、科学未来館の活動と役割を説明され、さらに未来を左右する都市・建築空間がどのような技術で作られているのかを一般市民に積極的に伝える活動が必要であるのではないかと我々に語られました。

毛利さんの基調講演では、JSCA関西が発足した1982年にNASAが着手した国際宇宙ステーション計画について、宇宙開発技術の先駆性、国際間での技術力の競争、地上の技術者のバックアップの重要性などを語られ、さらに、講演の1ヶ月前に土井宇宙飛行士が見事に宇宙ステーションへ「きぼう」の保管室部分を接続させたことをビデオにより詳細に紹介されました。会場からの多くの質問にも答えられ、300人近い聴衆の眼と耳を釘付けにしました。



後半のPDでは、まず、企画委員でまとめた建築の未来に対するアンケート調査の結果を報告し、そのあと、「あなたが考える建築の未来」アイデアコンペの最優秀作品1点と優秀作品7点について、応募者によるプレゼンテーションを行いました。コンペには16件の応募があり、各々の作品は建築の未来を様々な視点から表現されており、いずれも力作で夢あふれる未来が創造されていました。

構造計算適合性判定の円滑化に向けた取り組み



構造レビュー委員長

鹿島建設(株)
辻 幸二

■はじめに

構造計算適合性判定が2007年6月にスタートして、1年以上経過しています。最初の1年は、設計者、建築主事、適判員共に手探りの状態だったために、色々な不満や摩擦が生じていましたが、最近はやや落ち着きを取り戻しつつあるようです。年間の適判対象件数は、全国で7万棟とも8万棟とも予想されていましたが、蓋を開けてみれば、その半分程度の棟数が適判で審査されたようです。これは、不況の影響に加えて、適判を避ける建築計画を指向したことも大きな要因と思われます。適判に要した日数は、GBRCの場合平均45日程度とのことです。今後30日程度までの期間短縮に向けた様々な施策を実行されると伺っています。

■足並み調整会議

構造レビュー委員から、適判の指摘事項について意見を募ったところ、不適切と考えられる指摘や、これはおかしいと考えられる指摘があるという意見が数多く出されました。JSCA関西から関西の適判4機関に対して、適判の円滑化に向けて協議する機会を設けて欲しい旨、要望したところ「近畿建築行政会議適判部会」の下に「足並み調整会議WG」が発足して、JSCA関西からもその会議に出席して意見を述べる機会が与えられることになりました。GBRC、BCJ、大阪府防災センター、及び兵庫県住宅建築総合センターの4機関と近畿建築行政会議のメンバーとして大阪市の長谷川係長がWGのメンバーで、JSCA関西からは角支部長、近藤副支部長、多賀技術委員長と辻の4名が参加しています。

第1回「足並み調整会議」が、8月26日にGBRCの会議室で開催されて、「判定機関の足並みの乱れは、設計者（ひいては社会）の適判制度への信頼を揺るがしかねない大きな問題点であり、その解消のために4機関は最大限の努力を払う。」という基本姿勢が了承されました。

具体的には原則として以下の方針で進められることが確認されました。

- ① 確認審査機関に適切な役割分担を求める方向を基本とする。
- ② 5者が適宜、不適当な質疑・指示と思われる実例を持ち寄り、一件ごとに検討する。
- ③ 5者の合意を基本とする。
- ④ 判定員への「基準」の周知は、各機関がそれぞれに適切な方法で行なう。
- ⑤ 個別案件について「基準」に則って指摘しないことが構造安全上特に問題があると判定員が判断した場合には、判定機関の担当者に連絡し、調整する。
- ⑥ 既存のQ&Aなどは尊重する。
- ⑦ 知事との事前調整はしない。

11月末時点で、「足並み調整会議」は5回開催され、その内の4回にJSCA関西からも参加しています。4回の「足並み調整会議」で協議を進めて感じたことは、当然といえば当然のことかもしれませんが、足並み調整の難しさです。WGの方針も少し保守的な方向に推移しつつあり、合意事項についても、各機関内判定留意事項として取りまとめるため公開しないこととされました。また、技術基準のグレー部分はICBAのQ&Aに判断を委ね、近畿ブロックでの統一基準は作らないこととされました。

■JSCA関西からの提案書

「第1回足並み調整会議」に先立ち、構造レビュー委員から提出された不適切と思われる質疑・指示の事例について、判定機関へのJSCAとしての要望を「構造計算適合性判定を円滑に進めるための提案（1）」としてまとめて提示しました。次頁に提案書のコピーを掲載しているので、参照してください。提案（1）の指摘事例の左枠の「事例」及び欄外の注記は、現時点の状況であり、最終結論ではないので、注意してください。その他は、JSCA関西からの提案書のままです。

「足並み調整会議」の中間報告として、未だ合意されたものではないという前提で、個人的な見解を含めて、誤解を恐れずに少し紹介します。

No.1は、これを契機に全ての適判で指摘される恐れがあり、我々の意向と違うので、提案そのものを取り下げます。

No.6は、杭の偏心に伴うあらかじめの検討について、適判では検討内容の妥

当性のみを判定する。従って、全てのケースを網羅したような表現は避けて、一つのケース（凡例）として、検討しており、杭施工後、改めて検討する旨の計算方針を明記するのが望ましい。計画変更か軽微変更かは確認審査機関が判断する事項とのことです。

No.9は、設備の配管スリーブの位置を、設備系統図で、梁貫通可能位置や数は、構造図の仕様書で判断可能としている機関があります。設備系統図と構造図の仕様書で不整合があれば指摘しているということでした。

No.10、13は、微妙な問題を含んでいるので、取り下げる方向です。

No.11、15は、基礎分科会に要望文の用語の定義、文案等について検討をお願いしています。

④の申請図3部の内、朱印が必要なのは1部のみで、2部はコピーするのが正しいとのことです。

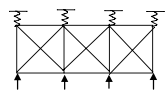
⑤のICBAの質疑回答の改善のお願いについては、未だ、協議の俎上に上がっていないので、今後要望していく予定です。

■会員からの意見募集

2008年10月17日、関西支部に所属する会員に対して、「構造計算適合性判定での指摘についての意見募集」の一斉メールを送りました。ご意見はJSCA関西ホームページの中の「Q&Aコーナー・適判での指摘」からお願いします。皆様から頂いた意見について、全ての意見を提出するものではありません。構造レビュー委員会で協議し、その妥当性について概ね合意された意見を要望として提出します。構造レビュー委員会で協議するに当たり、必要な情報を皆様から提供頂く必要がある場合は、ご協力よろしくお願いします。「Q&Aコーナー・適判での指摘」には適判員としての設計者への意見を記入して頂いても結構です。

適判制度は、不都合な設計を無くし、構造設計の適正化を図るために円滑に運営されるものであり、JSCAは基本的にこの制度に反対しているものではありません。不都合な指摘というものも、JSCA会員の判定員が指摘しているものもあることと思います。我々JSCAはどちらの立場でも当事者であります。我々がこの制度の適正化の主役にならなくてはなりません。皆さまの更なるご支援・ご協力をお願い致します。

構造計算適合性判定を円滑に進めるための提案（１）

① 指摘内容が判定員によってばらつきが大きい。 ある程度のばらつきは止むを得ないと考えていますが、もう少し統一を図って欲しい。 少なくとも2人の判定員が意見を交わし2人の中だけでも意見の統一ができれば少しは改善されるのではないのでしょうか。			
② 技術的内容の指摘で2007年版「建築物の構造関係技術基準解説書」の内容から逸脱するものがあります。 見解を求めているだけの場合でも設計者には期限を守る為に必死になっている状況であり、判定員が考えている以上にワークが発生しています。「技術基準解説書」に従って指摘をするようお願いしたい。 これを超えるものは注意を喚起するだけで判断は設計者に任せることを最初に明示して示していただきたい。			
③ 設計者によって指摘が変わるようなことが無いようにして頂きたい。 設計者によって指摘内容が変わっているのではないかと疑われる事例があった。設計者によって違ったことを要求するように聞こえる発言はおかしい。			
上記①、②、③に関連する具体的な指摘事例			
事例	No.	判定指摘内容	構造判定機関へのJSCAとしての要望
取り下げ	1	耐震壁の開口補強筋の設計を保有耐力時にも求められた。	終局時の開口補強は明確でなく、現状でもコンクリートの回りが懸念されるほどの補強があります。要求するにはそれなりの根拠ある方法を示して頂きたい。
上程	2	杭の水平力設計で慣性力だけでなく地盤変形を考慮するよう求められる。	基準解説書にも記載はなく、大臣認定物件並みの指摘は過剰な要求ではないでしょうか。
1	3	構造設計者なら明白にわかる同一架構と考えられる架構の応力図省略を認められなかった。	構造設計の常識的判断があってもいいのではないかと。設計者の作業量を考えて頂きたい。
上程	4	直接基礎で地震時水平力による基礎底から基礎梁心までのモーメントについて基礎梁を設計するように要求された。	特別に基礎が下がっているようなケースは別にして、いままでに検討された事例がないような指摘と考えます。
4	5	アンボンドスラブの設計図にシース配線の各所レベルだけでなく曲率を明示するように要求された。	曲率など作業所で測れません。意味のない指摘としか思えません。
整理	6	杭心スリの補強で予め検討をしたときに断面毎にクリティカルになるケースを検討するよう要求された。	生じてもない多くのケースを確認するのは作業の無駄と考えます。
上程	7	梁の曲げ耐力計算時にスラブ筋の効果を取り込む際に標準スラブを対象としてスラブ鉄筋を考慮していたが、梁に取り付くスラブ毎に検討しMAX、MINを計算しせん断保証設計、保有耐力をするよう要求された。	スラブ筋の影響範囲は不明確な点もあり、余りに特殊なケースでない限りは標準的な値を採用することで大きな問題はないのでは。作業量も考えて頂きたい。
1	8	壁の分担率50%以上の時にひびわれを考慮した増分解析時短期応力で設計したとき弾性設計時でも設計するよう要求された。	基準解説書にも両者をやることは要求されてはいません。RC建物ではRC規準に基いたひびわれを考慮することの方が適切と考えます。
3整理	9	設備配管スリーブ位置の明記を求められる時と求められない時がある。	計算書、補強図と貫通可能範囲の明記があれば伏せ図に記入は無くても施工できます。指摘の統一を図って頂きたい。
保留	10	挿し筋にD10を用いた完全スリット壁の面外方向の検討で、異形鉄筋はせん断・曲げに対する許容応力度が定められていないため、第37案に基づく材料認定を取得するか、SS400の丸鋼などを使用することを求められた。	一般に普及した方法であり、構造設計者の工学的判断の範囲内である。
上程整理	11	杭頭接合部の検討で、バイルドスタッド筋のスタッド溶接に対する基準強度の根拠が不明。杭端板の材料規格不明。板厚不明。スタッド筋とPC鋼線のずれによる端板の面外曲げに対する検証が必要との指摘があった。	杭頭接合法はBCJの審査証明があります。これでは不十分でしょうか。また、判定員によっては全く問題視されない方もおられるようです。
上程整理	12	偏心K形ブレース架構において崩壊メカニズムが梁降伏であるにもかかわらず、ブレースの継手設計を、ブレースの引張耐力に対する1.2倍の余裕度を確保する保有耐力接合とすることを要求された。	メカニズム時応力に対して部材の余裕度を確保しておくことは必要ですが、「2007年度版建築物の構造関係技術基準解説書」p.572「靱性を発揮すべく計画された部材が十分にその靱性を発揮するまで、これに隣接する接合部に早期の破壊が生じないことが、保有耐力接合のための条件である。」と記載されており、塑性化が想定されない部材に対して保有水平耐力接合を満足する必要は無いと考えます。
保留	13	短い杭のため直接基礎の支持方式によりDf=4.50m（GL±0～杭底）として支持力を算定していたが、ある程度の安全をみた設計が必要ではありませんかと指摘があった。	法適合性のチェック外の指摘については「設計者の判断によるが・・・」等のコメントを付加した指摘にして頂きたい。
1	14	地震時応力は正負両方向出力願います。	一次設計時の地震時応力は、弾性解析であり正負応力は符号が違うだけなので添付を省略しており、計算書から十分読み取れると考えます。
上程整理	15	塙所打ち鋼管コンクリート杭において、鋼管とコンクリートの付着が期待できないので、鋼管とコンクリートそれぞれの応力を示すことを要求された。	認定工法の設計式を用い検討していれば問題ないと考えます。
対応済み	16	杭基礎の建物で、耐震壁付き架構が負担するせん断力を杭に伝達するために、1階スラブの検討を行うよう指摘があり、剛床仮定に基づくせん断力の移行を考慮してスラブの面内せん断応力度の検討を行い回答した。しかし、回答について議論されること無く、同一の内容で数度の指摘が繰り返され、最終的にスラブをブレース置換し杭の水平剛性を考慮した適判員のよいと思う方法を強制された。また、指摘内容に関してヒアリングを申し込んだが受けてもらえなかった。 	設計者がいったん検討した方法について議論することなく、判定員の考え方を3回目の指摘まで引きすることに疑問を感じます。少なくとも2回目の指摘で設計者に判定員が自分の考えを伝えるか、ヒアリングを実施して欲しい。また、適判員の考え方を押し付ける権限はないはずです。
上程	17	マンションの事例で、梁貫通孔補強の設計を既製品（ダイヤレン）の評定条件に従い終局時の検証をしていたが、長期の検証を要求された。	従来から終局時のみの検証が行われており、RC規準でも、「メカニズム時のせん断力に対して確認している場合が多い」とされていることから、長期の検証は過剰な要求ではないでしょうか。
④ 無意味な作業で設計者に負担を強いていることに対して、配慮出来ないでしょうか。 提出図面3部それぞれの図面1枚、1枚に印鑑を押すことは本当に意味があるのでしょうか。2部は印鑑を押したもののコピーでいいとか改善の方法はないのでしょうか。			
⑤ 明らかに不合理な基準あるいはICBAの質疑回答に対して改善の動きをお願いします。 1 施行令第73案では鉄筋の継ぎ手、定着は40d以上とあるがコンクリート強度によって決められるようにすべきでと考えます。 2 ベースプレートの短期許容曲げ応力度は、2007年版「建築物の構造関係技術基準解説書」の計算例や建築学会の鋼構造設計基準」では、fb=1.5×F/1.3となっているが、「構造関係基準に関する質疑NO.92」によりfb=Fとすることとありますが、学会規準に従うべきではないでしょうか。 3 柱脚の軸力伝達は、ベースプレートとコンクリートの支圧強度による。許容支圧応力度は建築学会の鋼管構造設計施工指針では、f'c=fc√(Ac/A1)かつf'c≤2fcとなっているが、「構造関係基準に関する質疑NO.92」によりf'c≤fcとすることとありますが、学会規準に従うべきではないでしょうか。 4 告示1457号第10、2項のハ、工学的基盤の傾斜を確認する時、深さの5倍の範囲で確認するとなっていますが、設計者にこの情報を求めることは無理があります。地域において緩和できる方を設定すべきと考えます。			

■JSCA将来像策定について



副支部長
(株)東畑建築事務所
近藤 一雄

2005年11月に発覚した構造計算書偽装事件は、建築界はもとより一般社会の建築構造への関心を高めると共に、大きな波紋を残すこととなった。その結果建築基準法の改正により構造計算適合性判定制度、建築士法の改正により構造設計一級建築士(以後構造一級と称す)制度が発足することになった。新制度では、構造設計者はその存在や役割が明確になる反面、責任が伴うことになる。また法令遵守や高い倫理観も要求されることになる。このような状況の中で、2007年度にJSCA将来像策定WG(主査:山辺豊彦)を立ち上げ、JSCAのあり方の再構築の検討を行い2008年1月に検討結果報告書が会長へ提出された。本報告書の概要はStructure No.106 2008.04に掲載されているが改めてここにその要約を掲載する。

1. 会員制度

- (1) 正会員は、一級建築士有資格者とし、実務経験条件を現行の7年から4年に緩和する。
- (2) 構造設計一級建築士に対して積極的に入会を促す。
- (3) 準会員として構造設計・監理および関連業務を行っている人に対し、これまで以上に積極的に入会を促す。

2. 資格制度

- (1) JSCA認定の新建築構造士を創設する。
- (2) 現建築構造士は構造設計一級建築士を取得していること。
- (3) 新建築構造士幅広く総合的な視野を持つ構造設計者であるとJSCAが認定したもの。
- (4) 現建築構造士は当面存続させたのち新建築構造士に移行する。(構造設計一級建築士資格取得者は申請により新建築構造士に登録する。)
- (5) 構造設計一級建築士資格を持たない者、関連業務の実務に携わっている者に対して、各分野における技術を評価し、JSCA認定の専門技術者資格を検討する。

3. 会員サービス

会費に見合う会員サービスを実行するシステムを検討するとして

- (1) 正会員に対して
 - a. 業務拡大【業務受託、採用・求職情報、法律相談、保険サービス】
 - b. 技術的支援【設計内容の技術的確認、
 - c. 若手の教育【職能教育、技術教育】
 - d. シニアの技術研鑽
- (2) 賛助会員に対して
 - a. 技術交流会の開催
 - b. HPでの賛助会員のページの充実

4. 協会運営

- (1) 構造設計者の責任、報酬の明確化
- (2) 法人の性格 公益社団法人か一般社団法人か
- (3) 支部活動の活性化
- (4) 若手の参画
委員会への若手の登用、若手委員会、新人懇談会の開催 etc

5. 社会参加

災害時の救援活動、住宅相談員の派遣、耐震化相談 etc

以上の将来像策定WGの報告を受けて、2008年度より新たに将来像策定WGⅡ(主査:近藤一雄)を組織し、その具体化のための検討を進めてきた。そこでは、将来像策定WGの報告を改めて一から見直すと同時に、本年度通常総会において開催した中間報告会での貴重な意見や、機会あるごとに頂いた会員からの声、これらを反映し報告書をまとめ、10月に報告書(案)を公表し、広く会員からの意見を募った。寄せられた意見、提案を元に再検討を行い、最終報告書(案)を11月28日開催の理事会に答申し、一部修正を加え理事会承認を得た。以下に最終報告書の概要および、寄せられた意見・提案のまとめおよびそれらに対するWGⅡの考え方を示し、WGⅡ検討方針ならびにWGⅡ議事録に変えさしていただく。最終報告書概要を以下に示す

JSCA将来像策定WG「報告書」概要

1. JSCAの理念を明文化した

- (1) JSCAは、建築物の構造設計・監理や建築構造技術に関する業務に携わる者の集まりであり、会員に倫理に遵守、安全性・耐久性に優れた建築物の設計・監理を促し、もって良質な建築物を社会に提供する。

- (2) JSCAは、会員の活動を支援し、職能に対する社会の理解を深めることに努める。

2. 会員構成と会員資格について

- (1) 正会員は、構造設計一級建築士および一級建築士で実務経験4年以上で推薦のあるものとした。
- (2) 従来の準会員の名称を一般会員と改称した。
- (3) 将来の構造設計者の早期入会を促進するため、学生会員を設けた

3. 協会認定資格制度について

- (1) 建築構造士制度は、構造設計一級建築士の上位資格として位置づけ継続する。
- (2) 建築構造士はJSCA建築構造士と改称する、従来の建築構造士は構造一級建築士の資格を取得することによりJSCA建築構造士に移行する。構造設計一級建築士を未取得の建築構造士もJSCA建築構造士に移行するが今後3年以内に取得しなければ更新はできない。
- (3) 満60歳以上の正会員で建築構造士の責務に対して実績のある者を対象として称号【JSCA名誉建築構造士】を新設する。
- (4) 構造設計一級建築士取得前の一般会員を対象とした資格【JSCA建築構造士補】の創設を検討する。
- (5) 構造設計の専門分野に携わる構造設計技術者を対象とした資格【JSCA専門技術者】の創設についても検討する。

4. 会員に対する活動について

従来の活動に加え新たな会員活動を行う。

- (1) 研修会の充実
- (2) 構造設計・技術発表会の開催
- (3) 設計保険制度の確立
- (4) 耐震診断・補強判定委員会や構造レビュー委員会の充実

5. 公益法人への取り組み

公益法人改革において、職能団体であると同時に公共の福祉に寄与する団体としての社団法人を目指す。

6. 今後の検討事項およびスケジュール

JSCA将来像の早期実現に向けての詳細検討は既往の委員会が中心となり行う、会員資格等定款の変更は、2009年6月総会での決議を目標とする。

ご 意 見	将来像策定WGⅡの考え方（案）
JSCA活動の基本方針 会員が受ける、具体的なメリットは何でしょうか？ JSCAに入らなくても十分仕事ができる… 建築構造士は構造設計一級建築士にとってかわるし… 若い人はメリットがないのに高い会費は払えない… 何をj得るために入会するのでしょうか？ 会員数が多くても、実働会員は限られていませんか。 一部の方々に負担が集中していませんか。 ・技術者集団というものの、レベルの違いがあるはず。 個々人の足並みは揃っていますか。	・JSCAに入らなくとも十分仕事ができる。メリットは何かという語句にあるような直接的メリットを求めますか。メリットは構造設計者が結集していることにより、その職能が保持されることです。参加し活動することにより、廻りまわって構造設計者の立場が保全されることです。 ・御意見の内容は当WGメンバーも同じ悩みを抱きつつ、活動しています。基準法改正前後に、少しでも構造設計関係者の負担を増やさないよう、昼夜作業をいわず資料を作成し、主張し続けたのも、手弁当の委員です。耐震判定委員会を営利事業として実施することなども検討の俎上に乗っていますが、今後とも手弁当の活動中心にならざるを得ない面があることは、御理解いただきたい。 ・一級建築士を正会員の要件にしているので、基礎的能力の違いは大きくはないはずですが、職場環境・経験等によるレベルの違いは、厳然として有ります。それでも、足並みを乱さないで活動することを目指しています。
構造設計一級建築士資格者の大半を包含するよう」とありますが、弁護士会と弁護士の関係のように、JSCAに入らずして構造設計を生業とすることは叶わないような仕組みが作れると最高ののですが…	強制加入団体になれるなら理想的ですが、国の制度上、新たに強制入会団体を作ることは、不可能に近いようです。しかしながら、JSCAが社会から信用され、実質的にJSCA会員は仕事がしやすい様な状況までJSCAを昇華できるよう、がんばりましょう。
会員構成について JSCAが（新）建築構造士、構造設計一級建築士、正会員（前記2者を除く）、一般会員、学生会員、名誉会員、学術会員、賛助会員と広範な会員を束ねることで、構造設計に係わる関係者集団となることには疑問があります。（現JSCAが今回の国交省の一連の法令改正・制度改正の動きに決定的威力を発揮できなかったことの反省）。むしろ、社会的に認知された資格者に限定した専門家集団にすることの方が官に対しても社会に対しても発言力が大きくなるのではないのでしょうか。	・一協会の主張が全面的に採用されるものであれば、そんなに簡単なことはないし、JSCAとして構造設計者が結集している必要もありません。JSCAが存在し、その主張・活動があったことから、このレベルで決着しているのです。 ・会社や業界を母体とせず、個人の集まりであるからこそ、現在のような多様な人材が活動できていると思っています。道のりは遠いけれどたゆまぬ活動があってこそ前進があるのです。
会費について ・今後、検討されるとありましたが、1万円前後で検討をお願いします。⇒周りの者で「1万円位なら入会するんだけど…」という意見が多いようです。	・構造計算書偽装事件直後からのレビューなどによる臨時収入を除くと、現状の会費で協会の運営がやっと出来る状況です。会費は会員数と係わりが大きいので、会員数増加によって、御意見を実現できる可能性も皆無ではありません。
協会認定資格制度等について ・建築構造士と構造設計一級建築士との違いを明確に。 ・構造設計一級建築士資格者が、法的に何のメリットも無いにも関わらず、更なる上乗せ資格となる建築構造士に積極的にチャレンジするとは到底思えません。むしろ、一級建築士は取得したが構造設計一級建築士になっていなくて、それでも実働部隊としてそこそこの力量を有して構造設計を行っている者のスキルを保証する資格として、建築構造士を使えばどうでしょう？ 一級建築士⇒構造設計一級建築士⇒建築構造士、本報告書（案）でいけば、建築構造士への道のりは果てしなく遠いです。門戸を広げて敷居を下げる方が良いと思います。	構造設計一級建築士に求められる業務は法適合確認です。建築構造士は、構造設計一級建築士に要求される実務遂行能力に加え、一般社会に対して専門家として説明ができること、構造設計者の職能向上に寄与する活動を行えることなど、構造設計者のリーダーとしての能力を有するものとして位置づけています。 建築構造士を構造設計一級建築士の下位資格と位置づける案も検討しましたが、希望者は少ないと予想されること、構造設計一級建築士のレベルがあまり高く設定されなかったことから、現状の提案になりました。 理想としてはJSCAには構造設計一級建築士の全員が入会、建築構造士になって頂き、JSCAの運営の中核は建築構造士に担って頂きたいと考えています。 JSCAが正会員に対して行なう業務支援は、建築構造士を優先する運営としたいと考えています。
JSCAフェローなるものの新設には賛成できない。退会防止対策であることは見えみえで、一般社会に対して説明できない。世界的にも、「フェロー」という称号は「上級会員」のイメージであり、資格を失った者に与えるものとは考えられない。 JSCAエンジニア資格も理解できない。「エンジニア」という称号は、世界的には「アーキテクト」に対応する資格と聞いている。一級建築士取得前に「エンジニア」資格が取れるとは、大変な安売り。「建築構造士」を英訳すれば、「JSCA Structural Engineer」ではないのか。	大学人には名誉教授の呼称を与え、社会参画への道を残しているように、現役ではないが、その種の経歴を有する者としての称号を創りたいと考えて提案しました。 フェローも含め、名称は今後慎重に決めたい。「JSCAエンジニア」は、有用な設計補助者をJSCAが認定するものであり、構造設計者の構成員として、その立場を認定し、JSCA理念を広い意味で実践する仲間として、取り込みたいと考えて提案しました。
公益法人への取り組みについて 職能団体は日本医師会、各弁護士会はじめ、数多くある。それらは、いずれも公益のための団体として、「公益社団法人」を目指しているのではないか。JSCAも「公益」で頑張るべきと思う。もしも、第3者の目が必要なら、この機会に理事の半数は外部から入れても良い。ただし、日常の活動は常任理事で進める制度にする。	JSCAの活動に見合った形態をとるべきで、信用のみに固執して公益社団法人を目指す必要はなく、今後の検討事項だと思っています。ただし、第三者の役員の制度までは必要ないと考えています。

●事務局日より

構造設計ゼミナールの開催がこの1年で7回を迎えました。今後も活発な活動を目指しています。みなさまの積極的な参加をお願いいたします。

(事務局長：前野 敏元)

1. 支部幹事会

日時：10月20日(月)18:30～20:00

場所：安田ビル2階会議室

2. 四役会

日時：10月7日(火)18:30～20:00

場所：安田ビル2階JSCA関西事務局

日時：12月8日(月)

場所：安田ビル2階JSCA関西事務局

3. 構造レビュー委員会

日時：10月7日(火)15:00～18:00

場所：GBRC会議室

内容：適判の指摘内容の足並み調整

日時：10月10日(金)15:00～18:00

場所：GBRC会議室

内容：適判の指摘内容の足並み調整

日時：11月25日(火)18:00～19:30

場所：安田ビル会議室

内容：足並み調整会議報告 他

4. 支部事業委員会

日時：10月6日(月)18:30～20:00

場所：安田ビル2階JSCA関西事務局

・若手技術者育成講座

日時：2月上旬(予定)

・現場見学会(第2回)

日時：2月下旬～3月下旬(予定)

場所：御堂筋本町ビル

5. 技術委員会

日時：10月14日(火)18:45～20:10

場所：安田ビル2階JSCA関西事務局

内容：①第6回構造設計ゼミナール(PC工業化分科会)の報告

②第7回構造設計ゼミナール(情報システム分科会)について

③第8回、9回構造設計ゼミナール(木造分科会、耐震設計分科会)の企画案について

・構造設計ゼミナール

日時：10月10日(金)17:30～19:30

場所：大阪科学技術センター405号室

テーマ：「PC造を設計しませんか」

・PC造の設計の特徴

・具体例による設計手順の解説

・PC造のコストについて

・PC造の設計例

日時：8月22日(金)17:45～19:45

場所：大阪科学技術センター405号室

テーマ：「一貫計算プログラムでの留意点」

・モデル化の落とし穴、留意点

・大臣認定プログラムの内容

6. 広報委員会

日時：10月15日(水)17:15～19:00

場所：大林組会議室

内容：Structure Kansai No.100号

編集会議、No.101号 企画会議

日時：12月5日(金)17:30～

場所：大林組会議室

内容：No.100号編集調整会議

日時：1月14日(水)17:15～(予定)

場所：大林組会議室

内容：Structure Kansai No.101号

編集会議、No.102号 企画会議

7. 技術委員会分科会各分科会

・地盤系分科会

日時：12月10日(水)18:00～20:00

内容：①構造ゼミナール反省会、

②来年の方針について

・RC分科会

日時：10月21日(火)18:00～20:00

場所：竹中工務店会議室

内容：①連結制震構造を適用した

超高層RC建物紹介

②鉄筋のマーキングについて

③日本鉄筋継手協会 調査研究

発表大会報告

日時：12月2日(火)18:00～

場所：竹中工務店会議室

内容：①最新トピックス紹介

②その他

・金属系分科会

日時：10月27日(月)15:00～18:00

場所：積水御堂筋本町ビル

内容：鉄骨工事現場見学会

日時：12月18日(木)17:00～19:00

場所：安田ビル2階JSCA関西事務局

内容：鉄骨造の耐震診断・耐震改修

・情報システム分科会

日時：11月13日(木)18:00～20:30

場所：構造計画研究所 大阪支社

会議室

内容：構造設計ゼミナール事前調整

・耐震設計分科会

日時：10月21日(火)18:00～20:00

場所：鹿島建設北浜タワー作業所

内容：超高層制震集合住宅事例紹介

日時：11月12日(水)17:30～19:00

場所：竹中工務店プレゼンテーションルーム

内容：耐震改修勉強会4

日時：12月18日(木)15:30～18:00

場所：清水建設新神戸タワー作業所

内容：超高層免震集合住宅事例紹介

・PC・工業化分科会

日時：10月1日(水)18:30～20:30

場所：竹中工務店会議室

内容：①PC建物の設計・施工紹介

②構造設計ゼミナールについて

日時：1月30日(金)17:00～(予定)

場所：竹中工務店会議室

内容：①PC建物の設計・施工紹介

②今後の活動方針

・木構造分科会

日時：10月1日(水)18:30～21:00

場所：安田ビル2階会議室

内容：①構造設計ゼミナールについて

②大阪府マニュアルの紹介

③E-ディフェンス公開実験の

予定について

④大阪市からの調査業務委託に

ついて

日時：12月3日(水)18:30～(予定)

場所：安田ビル2階会議室

内容：①構造設計ゼミナールについて

②E-ディフェンス公開実験

報告

・法制分科会

日時：12月11日(木)

場所：安井建築設計事務所 会議室

内容：①改正建築士法は構造技術者以外の目にいかに映るのか

②情報交換

8. 支部報

Structure Kansai No.99発行

Structure Kansai No.100発行

●編集後記

Structure Kansaiも100号を迎えました。その間、構造家懇談会よりJSCAになり、法改正あり、建築界の移り変わりを読むことが出来ます。この小さな機関紙の紙面に我々の思いを結集し、凝縮して掲載した記事は高く評価されると思います。Structure Kansaiは法改正をはじめ、社会の動きをジャーナルに伝えること、JSCAの技術分科会などの事業、作品の紹介などの情報を伝えることが出来ました。更には会員の声もアピールして、Structure Kansaiが今後とも継続していくよう、会員の技術の向上と精励されている業務が良い成果となって行きますよう祈念いたします。

(担当：三原 河野)

発行 (社)日本建築構造技術者協会
関西支部事務局

〒550-0003

大阪市西区京町堀1-8-31(安田ビル3F)

Tel 06-6446-6223 Fax 06-6446-6224

Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp

URL <http://www.mmjp.or.jp/jsc-kansai/>